

卒業式なき卒業から50年の集い そこから生まれた「絆と生きがい」

F44 吉田 元治

昭和44年(1969年)卒業の吉田元治です。在学中にコンパ幹事を担当し、また、地元在住(一宮市)の関係で学年幹事をさせていただいています。前会長の守田賢一様より投稿依頼を受けていましたが、小生の膵臓がん手術及び術後の合併症で投稿が遅れ申し訳ありません。今回は久しぶりのクラス会とその後の展開について報告させていただきます。

□ F44の特徴

昭和40年(1965年)入学、4講座40名のクラスで学生のほとんどが戦後生まれ、出身地は北海道から福岡県までの15道府県です。卒業1年前の春には関西(島津製作所・大日本スクリーン・松下)、中国(東洋工業現マツダ・宇部興産)、九州(三菱重工)への工場見学旅行もあり楽しい学生生活でした。4年生の時に大学紛争が起き卒業当日は卒業式もなく計測事務室に置かれた卒業証書を各自が受け取り、その後約30名で最後のコンパを開催し、名残り惜しく別れました。

□ 50年ぶりのクラス会開催の経緯とそこからの発展

クラス会開催のきっかけは、2018年1月下旬の同級生の訃報でした。数年前から彼の年賀状でクラス会の開催を要望されていました。亡くなった年の年賀状には、開催のことが書いてなくてどうしたのかなと少し気にかけていました。小生の怠慢により延び延びになった事は彼に申し訳なく後悔しています。同じ学年幹事の村中さんに連絡をとり早速クラス会開催の準備を進め住所録の整備、会場の確保等を進め、4月5日に開催しました。参加者は16名で久しぶりに名工大の構内を散策しその後、昭和40年4月の新入生歓迎会が開かれた「浩養園」で昼食会をおこない各自の近況等を語り合い楽しい時間を過ごしました。

この集いで参加者から「地区別クラス会」と「ゴルフコンペ」の開催提案があり早速実行に移しました。関西地区では2018年12月に京都で忘年会を開催しました。その後北陸での開催は新型コロナ禍で中断になっています。「ゴルフコンペ」は2018年5月29日に8名が参加し第1回を開催しました。参加者の住所は、東は豊田市・西は滋賀県野洲市ですのでその中間の関ヶ原で開催し、第1回から第4回までは関ヶ原CC、第5回から第6回までは養老CCで開催しました。第6回(2022年4月26日開催)のベスグロはスコア80の松浦博司さん、ドラコンは飛距離230Yの野々川隆さんでした。今迄唯一の欠席者は小生の第5回だけです。新型コロナ禍で数回の中止がありましたが年2回のペースで開催しており、次回は10月17日の開催を予定しています。これと並行して別に岐阜市、一宮市在住の4名で月例会ゴルフを楽しんでいます。

久しぶりのクラス会の翌年10月に名工大のホームカミングデーで「昭和44年卒記念式典」

が開催されクラス会とほぼ同数の同級生が参加しました。

□ ゴルフコンペ参加者からの「一言」

○ゴルフ関連

・「75歳のゴルフ」

振り返るに、60歳代までは、より遠くに飛ばしたい、いいスコアで回りたい、運が良ければホールインワンとの思いでのゴルフであったが、ここ5年気が付けば、ここまでしか飛ばなかったか…体力筋力低下を思い知らされている現状です。

しかし、幸いにもゴルフには、年と共に目標値が低くなる「エイジ・シュート」となる賞があり、可能性を信じ、これに向けての充実ゴルフ！！ (F44 小川元)

・「ゴルフ仲間」

16年ほど前の8月北欧旅行した時、同一ツアーの中に名古屋の方がみえてゴルフの話が出(ゴルフやる方他にもいるよ)ということで4組の夫婦と知り合いになり、来年からゴルフ一緒にやりましょうとなりました。1年間4回各自が持ち回りで「北欧会」ということにして各自のホームコースでプレーすることになりました。またゴルフだけでなく会食、北海道・沖縄等の旅行もかねて親睦を深めました。3年ほど前1人の男性が亡くなり7人となりましたが、これからも仲良く色々なことが話し合えるよう会を長く保つよう頑張ろうと思います。 (F44 神谷利弘)

・「新聞で見た一行詩、なるほどと思い皆さんと共有」

『自分へ ゴルフの前日は希望、プレー中は嘆き、帰りは反省ばかり。』

今回も正にこれだった。しかし、毎回希望を感じてプレーできているのは素晴らしい事だとも思っている今日この頃です。 (F44 野原喜久男)

・「ゴルフ始めて50年」

ゴルフを始めて、50年が経ちました。

大学卒業後に入った会社が、本業以外にゴルフ場を造成し管理運営を行っていた関係で、社内でのゴルフが盛んでした。その影響で入って2年後からゴルフを始めました。最初は年3、4回のコンペに参加する程度でした。

その後、40代前に会員権を購入し、バブルの時には朝まだ星や月が消える前に出かけ、昼休憩は2時間待ちで、帰るのは夕方月や星が出てくる時もありました。退職前に家内もゴルフをやるように勧めました。そして退職後は真冬の日本を離れ、真夏のオーストラリアのバースへロングステイして、ゴルフ三昧で楽しみました。連日40度近い暑さの中(但し湿度は20%位)、ジャパニーズ、クレイジーと言われながら、現地に住んでいる同朋や同じロングステイ仲間と安いゴルフ(1ラウンド;2000円弱)を楽しみました。

60代から70代に入ると段々と飛距離が落ちてきました。今、女子プロの卵たちがテレビで飛ばしているのを見て、何とかもう一度飛ばしたいと、YouTube でいろんな指導者の打ち方をまねて練習しています。しかし、スコアメイクはアプローチとパターと言われていて、特に3パットがたくさん出るともうスコアになりません。こちらでもテレビのゴルフ番組を録画して、パットの打ち方を研究しています。

私にとってゴルフは、健康のバロメーターのようです。平均寿命ではなく健康寿命を延ばして、いつまでもゴルフが出来るようにしたいと思っています。

(F44 松浦博司)

・「友と楽しむゴルフ」

若い時の忙しい合間を縫いながら飛距離を求め48インチドライバーを振り回していた時から、膝の故障で1ラウンド歩けなくなり中断、それ以降カート利用可能になるまで数年間の中断後漸く再開できた時のゴルフプレー自体の退化の驚き、更に近年飛ばなくなった結果不得意だったアプローチとパターに頼らざるを得ないゴルフ 年齢と共に進化？(退化?)するゴルフを日々痛感させながらも、友と共に楽しむ健康ゴルフが一番。その中でも大学時代の同窓生と楽しむゴルフは楽しくて春秋2回と4人の月例会が生き甲斐に近くしながら、年齢と共に襲ってくる病魔と戦っている今日この頃です。

(F44 村中俊夫)

・「癌とゴルフ」

昨年8月末の計測月例会ゴルフの最中に体調不良となり、病院で検査・診察の結果『膵臓がん』と判明、10月に手術を受け、第6回は手術後初めてのコンペ、術後ハンデは2割増しいただき優勝することができました。入院により飛距離は2割減少しました。現在抗がん剤を服用し再発・転移防止の治療中、合併症による40℃の発熱も時々ありますが、次回10月のコンペも参加できるよう頑張ります。またがんについては次項「私のボランティア活動」の當田哲正さんより多くのアドバイスを受けています。これも集いから生まれた「絆」です。

(F44 吉田元治)

○ゴルフ以外の活動

・「私のボランティア活動」

同じ仲間と語りたい。がん患者・家族支援(ピアサポート)のボランティア活動に飛び込んでから早10年になります。5年生存率20%と言われるスキルス胃がんが偶然見つかったのは現役52歳でした。胃の亜全摘手術(4/5切除)で済んだものの、その後はダンピング症候群とひどい下痢、今も悩まされています。がんは男性3人に2人がかかると言われています。かつてがんは怖い病気と恐れられ、死を覚悟する病気と言われてきましたが、今では多くの方が復帰自分らしい生活を取り戻しています。

しかしがん告知を受け、手術、抗がん剤治療そして放射線治療、さらにその後の副作用、合併症、後遺症など患者は多くの不安、悩みを抱え、心は揺れ動きます。そんな時、がん体験者が自分の経験を活かし患者・家族の不安に寄り添いながらお話をじっくり傾聴します。相談者は同じがんの体験者が自分と同じような不安・悩みを経験していることを知り、自分一人だけが苦しんでいるわけでないと感じます。そっと背中を押し前に踏み出すきっかけになることも多くあります。

さて、医療技術は現在急速に進んでいます。例えばゲノム医療による個別化医療、ロボット支援による体への負担が少ない手術、声を失う前あらかじめ自分の声の収録AIディープラーニング技術で作られたアプリをインストール、スマホを使い自分の声で会話ができるなど。90歳で胃を全摘手術し、回復、元気に日常生活に戻って行かれる方も決して少なくありません。もちろん体力があること、認知機能が十分なことなど条件が付きますが、がん検診など自分の体のメンテナンスを日頃から心掛け、がんの早期発見ができれば、年齢が進んでも治療の選択肢が広がります。合わせて体力作りと脳の活性化も必須です。私も過去の苦い体験を反省し、ぬかりなく過ごしております。

皆様のご健康を祈念しております。

(F44 當田哲正)

・「地球温暖化防止と私」

ここ数年前から、日本でも集中豪雨(今は線状降水帯)が各地で悲惨な災害をもたらすようになってきました。また夏の気温も信じられないような暑さが続くようになりました。

仕事柄、環境に関することにも携わってきた関係で退職後地元の市環境課の環境保全委員として、市内の環境改善のボランティア活動を行ってきました。

続いて5年前からは、滋賀県知事から「地球温暖化防止推進員」を委嘱されて、県内での地球温暖化防止活動を推進してきました。県内には約100名の推進員がいて、2年毎に継続・更新されています。

具体的な活動として、小学校の授業の中で、温暖化防止はどうすればできるのかを子供たちに紙芝居などで説明し理解を深めてもらっています。また子供たちや保護者の方、地域の皆さんが楽しみながら、地球温暖化について理解し実践できるようなイベントも多数開催しています。

- ・琵琶湖フローティングスクール事前学習「生きているびわ湖」(甲良西小学校)
- ・しがCO2 ネットゼロムーブメント省エネキャンペーン(イオンモール草津)
- ・温暖化防止講座「竹細工」(竜王町公民館)
- ・里山元気会「森の音楽会」(甲賀市)
- ・火起こし体験講座(野洲市)
- ・木育ワンダーパーク(淡海環境プラザ)

・今浜 しがネットゼロムーブメント紙玉鉄砲(もりやまエコパーク)

これから生きていく子供たちや孫たちにとって、この地球が温暖化で住みにくならないように、少しでも多くの人達に温暖化防止を理解してもらい、そのための活動実を推進していく後押しをしていきたいと思っています。(F44 松浦博司)

第6回 F44コンペ参加者(2022年4月25日 養老 CC)



後列 左より 村中(一宮市) 野原(岐阜市) 吉田(一宮市) 野々川(小牧市)
前列 左より 神谷(豊田市) 小川(岐阜市) 松浦(滋賀県) 當田(名古屋市)

学年幹事 村中俊夫 吉田元治